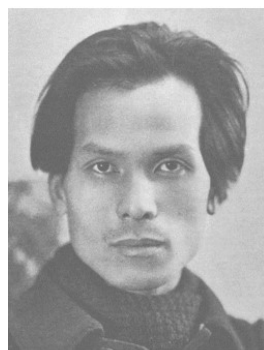


38 グラン=モランを描いた画家：佐伯祐三

パリから東へ 50 キロほど行くと、多くの画家が愛したグラン・モラン川流域ののどかな景色が広がります。この川流域の風景に魅了された芸術家の一人に、日本人画家の佐伯祐三（1898-1928）がいます。



SAEIKI Yuzo
佐伯祐三

佐伯祐三は、東京美術学校（現在の東京藝術大学）を卒業後、1924（大正 13）年にパリへ来ました。フォービズムの画家であったモーリス・ド・ヴラマンク（1876-1958）と出会い、ヴラマンクの影響を強く受けました。ある時、佐伯はヴラマンクを訪ね、自分の作品を見せたところ、ヴラマンクにアカデミックな作品であると一蹴され、強いショックを受けたとされるエピソードが残されています。事実、佐伯の作風は大きく変化しました。佐伯が描いた風景画は、モーリス・ユトリロ（1883-1955）の影響も受けていると言われています。佐伯は、パリに長く滞在することを望んだものの体調が優れず、1926（大正 15）年に日本へ帰国しました。フランス滞在を強く望んだ佐伯は、1927（昭和 2）年夏に再び渡仏しました。しかし、1928（昭和 3）年春頃から再び肉体的にも精神的にも衰弱し、その年の 8 月に 30 歳の若さで、フランスで生涯を終えました。

佐伯は、画家として活動したわずか 6 年のうちの半分をフランスで過ごしましたので、佐伯の代表作の多くはフランスで描かれたものです。グラン=モランには、佐伯が描いた風景が現在でも残っています。彼の作品「モランの寺」（写真左下）はサン=ジェルマン=シュル=モランにあるサン=ジェルマン教会をモデルにしています。また、「ヴィリエの市役所」という作品も残されており、これは、ヴィリエ=シュル=モランの市役所を描いたものです。市役所の建物は新しくなっていますが、現在も当時と同じ場所にあります。1928 年 2 月にヴィリエ=シュル=モランに滞在した後に佐伯は体調が悪化したので、これらは彼がパリ以外の場所で描いた最後の作品かもしれません。

一世紀の時が流れても、グラン=モランには、佐伯が描いた景色が今も残されています。川の流れのように、グラン=モランでは時もゆっくりと流れているようです。



掲載日 2023 年 12 月 1 日

Ambassade du Japon en France